

パーフェクトリバティー教団のレシーフェ市における展開

PL教団のレシーフェ市での展開は、組織布教の特徴をよく示している。1975年6月にイタリア布教に出かけていた小野久彦（本稿第25回で詳述）がPL南米本庁に戻った際、教区長からブラジル北部に「進出」する意志を聞かされた。当時、ブラジルの教勢は南部にしか広まっておらず、北部への布教が必要だとされていた。そこで教区長が北東部の大都市サウパドル、レシーフェ、フォルタレーザのいずれかに調査に出向くよう小野に命じたのだった。

小野はミラノから戻って1週間後に単身でレシーフェに向かい、早速布教拠点となる家屋を探した。宿泊先のホテルの主人の協力を得て、町の中心に家屋を借りることができた。彼は妻と子供を呼び寄せてレシーフェ布教を開始するも、当初はほとんど参拝者のいない日が続いた。3カ月が経った頃、サンパウロで熱心に信仰しているというブラジル人会員が教会にやってきて5～6人の親戚や友人を連れてきた。それから後はその人たちをつてに参拝者が増え始めたという。

毎月21日に行われる感謝祭には家の外に参拝者が溢れるほど賑やかになり、会員指導のために南米本庁から応援の教師が派遣されるようになった。ブラジル本庁は程なくして風光明媚な海岸線にあるポアヴィアーゼン地区に家を借りて教会を設立（1977年）、また市の中心街にも小さな家を借りて布教するようになった。会員数は数年もしないうちに300人を数えた。筆者が調査を行った1997年当時、レシーフェ教会の会員数は約3,000人で、日系人信者は1家族のみだった。

現在の教会は町の中心街の至便なところに位置し、レシーフェ市東部に向かうバスターミナルの近くにある。近辺には商店街や学校も多く、人通りが多いことから何気なく教会に立ち寄る人も少なくない。こうした立地条件は信者獲得のうえで機能しているといえよう。事実、教会近辺には同様の布教戦略を取るかのよういくつかの宗教施設が集中している。同じ通りには3つのペンテコステ系プロテスタント教会の大きな建物があり、いずれも同市の中央教会としての威容を誇っている。それらは、老舗のアセンブレイア・デ・デウス教会、世界進出を思うがままにするかのような神の王国ユニバーサル教会、そしてユニバーサル教会の活動規模に迫るとも言われる神の力世界教会（Igreja Mundial do Poder de Deus）である。また、PL教会から歩いてわずか5分ほどのところには生長の家レシーフェ教化部がある。

レシーフェ教会の日常活動

教会には教会長（教師）家族およびDS（Divine Sister）と呼ばれる若い一人の女性が住んでいる。彼らはブラジル本庁から派遣されており、一定期間を経ると別の教会や本庁に異動する。彼らの使命は会員のケアと自立を促すことにあるといえるだろう。教会では様々な礼拝が行われるが、それらを取り仕切るのには必ずしも教会長という組織上の長でなく、補教師と呼ばれる会員のなかのリーダー的存在であることが多い。教会長は宗教的指導者であるとはいえ、教会活動を担う会員をサポートする立場にあると言える。

ここで、筆者が行った調査をもとに教会の日常活動を見ておこ

う。教会は、朝の礼拝（朝7時）で門が開けられ、夕方の礼拝終了（夜7時）まで一般に開放されている。毎日、教会施設の掃除を中心に献身（みささげ）を行う数名の女性会員の姿を必ず見かけることができる。そのほか、PL教団のユニークな個別指導を受ける会員の姿も稀でなく、日常活動は盛んである（表参照）。

PLの会員指導は、教師である教会長のみならず補教師らが担当する。彼らは一般会員の苦悩（「みしらせ」）にたいして宗教的なオリエンテーションを行い、それは日本の大本庁から個々の会員に送られる「みおしえ」と呼ばれるメッセージに基づいている。病気・不幸・災難とは単なる苦痛でなく個人の自己表現の歪みであるとされ、会員はそれを是正するために教団の最高権威である教主（おしえおや）に直接オリエンテーション（「みおしえ」）を願ひ出る。ブラジルの場合、教師や補教師が会員の苦悩を書面に書き込み、ブラジル本庁に送られて日本語に翻訳される。それが日本の大本庁へと渡り、数カ月後にはポルトガル語に翻訳された個人宛ての「みおしえ」が届けられるのである。同教団の聖典には『処世訓』や『生活訓』があるが、「みおしえ」は個別の聖典とされる。このような聖典や指導方法には教主の全責任における固い決心（遂断くしきり）が込められているとされる。

さて、月例活動には、1日、11日、21日の3度の祭典がある。毎週日曜日には「日曜礼拝」があり、いずれも100名ほどの参拝者がある。日曜礼拝の後には、教会奥のサロンで軽い軽食が振る舞われ、参拝者達が皆思い思いに会話を楽しむ姿がみられる。前述したように、これらの祭典で勤められる儀礼は一般会員である補教師が中心となっており、教師はそれを補佐、監督する役割を果たしている。このことは、教会長が儀礼を常に先導する天理教と対称的である。

このほか、ブラジルの教会の入り口には必ずブラジル教区長とカトリック・サンパウロ大司教が握手を交わしている写真が掲げられていることも指摘しておこう。初めて教会を訪れるブラジル人はこの写真を見て同教団をキリスト教（カトリック）の一部として見なすこともあるようだが、少なくとも彼らは安心感を得るという。ブラジルの宗教文化にいかにして溶け込むかというパーフェクトリバティー教団の布教戦略が見て取れる。

1カ月の活動（1997年11月）

1日	「平和の日」の祭典 7:30、15:00、19:00
2日	「日曜礼拝」8:00、その後朝食会
4日	教会長の講義 19:00
5日	肉体献身（1日）
8日	補教師候補のための授業 16:00
9日	「日曜礼拝」8:00、若者のための授業、その後朝食会
11日	「先祖の日」の式典 7:30、15:00、19:00
12日	「妻の道」の講座 15:00
16日	「日曜礼拝」8:00、その後朝食会
18日	肉体献身 19:00
21日	「感謝の日」の式典 7:30、15:00、19:00
22日	補教師候補のための授業 16:00
23日	「日曜礼拝」8:00、その後朝食会
25日	「夫の道」の講座 19:00
28日	翌月の活動プログラムの話し合い
29日	補教師候補のための授業 16:00
30日	「日曜礼拝」8:00、その後朝食会、モビネッキ（清掃奉仕）